



国民の森林・国有林

中部森林管理局

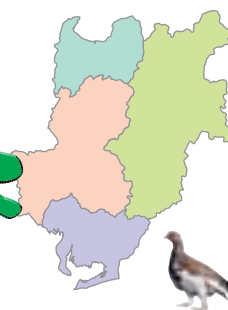
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



題名 動物のすみか きれいな森林
小学校高学年部門 局長賞 中村 俊介くん



題名 森と共に
中学生部門 局長賞 小島 友紀さん

あったらしいな 森林

「森林の絵画コンクール」開催

(P 5 に関連記事)

主 な 項 目	○ 中部森林管理局における「木づかい推進月間」の取り組み ……P 2～3 ○ 森林の絵画コンクール ……P 5 ○ 各地からのたより ……P 5～7
---------	--



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

中部森林管理局における

「木づかい推進月間」の取り組み

「木づかい推進月間」の広報活動

「販売課」「木づかいは、誰でもできるエコ活動です。」ではじまるポスターは、プロ野球マスターズリーグ大沢委員長に加え、新たにピングー&ピングが加わり木づかい推進月間を応援しています。

この推進月間の取り組みとして中部局では、庁舎正面の壁に幅一・五メートル長さ八メートルの垂れ幕を張り、東通りを利用する者にPRをしています。

また、正面玄関を入ったフロアーには、今まで常設のカラマツ製品等の展示に加え、木曽官材市売協同組合の協力を得て、木曽ヒノキ特木等を使用したフローリング・壁板・カウンター・柱・階段板等を展示し、国有林材のPRを行っています。

違法伐採の取り締まり、原油価格の高騰等による外材の値上がり等により、合板工場でも国産材が利用されるようになり、国産材にとっては追い風が吹き始めたとも言えるときです。

林業に携わる者として、小さな物でも国産材が使用された製品等の購入をする「木づかい」に協力していきましよう。それが「誰でもできるエコ活動」となり、地球温暖化防止にも繋がっていくことになります。



設置された垂れ幕



局玄関に展示された木製品

民間と連携し

「木づかい推進月間」に取り組む

「飛騨署」「木づかい推進月間」の一環として、十月八日の「木の日」を控えた十月四日、高山市、飛騨市及び白川村内の行政関係ほか関係機関に対し、「宮・庄川流域森林・林業活性化センター」の構成員等による木材利用の拡大に向けた要請行動が実施されました。

要請行動には当署から署長及び流域管理調整官が参加。国有林として民有林と連携した取り組みにより原木の安定供給に取り組んでいる状況を説明するとともに、新たな「森林・林業基本計画」の目指す方向についてPR版を活用し説明し



岐阜県飛騨振興局長への要請

ました。

また、当署ではこのたび署二階ロビーにカートカン使用の自動販売機を設置し、横には森林組合製作の間伐材ベンチを置くなど、間伐材利用の推進に向けたPRコーナーとして活用しています。

「木材の利用促進」を！

「木の日」の要請行動

「名古屋事務所」「木の日」(十月八日)にちなみ、十月六日に愛知県、十二日に岐阜県へ両県の木材利用推進協議会(愛知県・上地宏保会長、岐阜県・後藤直剛会長)と名古屋事務所が連携し、「木づかい運動」のPRと「木材の利用推進」に関する要請活動を行いました。

岐阜県知事・愛知県副知事はじめ両県議会、また愛知県では東海農政局・中部地方整備局、岐阜県では県警本部の木材利用に関する関係部局長等に対し、公共施設・諸学校の木造化・内装木質化・土

木工事等における間伐材の積極的な利用、地域材を利用した木造住宅の建築促進、木質バイオマスエネルギー利用の積極的推進等に関する要望書を手渡し、理解と支援をお願いしました。

また、九月に閣議決定された「新たな森林・林業基本計画」についても冊子を手渡し説明するなかで、今後の林政に対する協力と支援をいただけるよう要請しました。



要請活動風景

販売協力者へ感謝状を贈呈

「販売課」平成十八年度国有林野事業販売協力者の感謝状贈呈式を、十月十一日、木曽官材市売協同組合入札会場において土場活用委託販売と併せて開催しました。

昨年度、管内における林産物の一般競争入札で、積極的に国有林材を購入し利用の促進に協力いただいた方々に対し、

感謝状を贈呈するものです。

(受賞者は次のとおり。)

平成十八年度国有林野事業

感謝状受賞者(敬称略)

◆林野庁長官感謝状

〔立木販売の部〕

丸眞木材

(岐阜県高山市)

〔素材販売の部〕

株式会社勝野木材

(長野県木曽郡南木曽町)

◆中部森林管理局局長感謝状

〔立木販売の部〕

神岡林業協同組合

(岐阜県飛騨市)

有限会社今井木材

(長野県木曽郡大桑村)

笠原木材株式会社

(岐阜県高山市)



感謝状を受け取る丸眞木材

〔素材販売の部〕

株式会社西村木材店 (三重県松坂市)

池田木材株式会社

(長野県木曽郡上松町)

のむら木材株式会社

(長野県木曽郡上松町)

名古屋国有林材協同組合

(愛知県名古屋市)

嶋田木材株式会社

(愛知県豊川市)

平成十八年度 国有林野管理審議会を開催

〔国有林野管理課〕第六十二回中部森林管理局国有林野管理審議会を十月五日、局大会議室において開催しました。

当日は、審議会委員十三名、当局から小緑局長、矢内次長ほか関係者が出席し、名古屋市内の白鳥公務員宿舎及び旧青楓荘敷地等の売払い、二議案について審議されました。

審議に先立ち、小緑局長から、日頃の国有林野事業の取り組みに対するご協力のお礼と、九月に策定された「森林・林業基本計画」について、計画の目指す方向及び国有林としての役割を適切に果たしていく旨の説明がありました。

今回は、議案説明に入る前に、過去十年間の審議物件の活用状況の紹介があ

り、売払い箇所が「市町村の森、病院、住宅地」等へ活用されている説明がされました。

引き続き議案の説明が、売払い箇所の位置関係、敷地及び建物の状況、周辺の様子等について行われました。

審議の中では、委員から「国有財産のより効率的な良い売払い」、「都市部での川上との連携、国産材活用のPR」といった意見や、国有林野事業の運営への助言、要望等も活発に出され、提出議案については原案どおり承認され、局長に答申されました。

最後に、矢内次長から、委員へ熱心な審議に対するお礼と、一層の国有林野事業及び森林・林業へのご支援をお願いし、審議会を終了しました。

議事を進行する
大日方会長



管理審議会の様子

「レクリエーションの森 リフレッシュ対策検討委員会」

現地での検討会を開催

〔国有林野管理課〕九月二十一日、二十一日

日、「定光寺自然休養林」において、「レクリエーションの森リフレッシュ対策検討委員会」の現地検討会を開催しました。

今回の検討会は、昨年度の委員会の中でレクリエーションの森がどんな状態なのか現地を見てみたいとの要望があり実施したもので、七名の委員の方々が出席されました。

二十日は、愛知森林管理事務所の案内で定光寺自然休養林の主な施設を視察し、レクリエーションの森の現況等について理解を深めていただきました。

二十一日は、始めに事務局より定光寺自然休養林の概要や利用者等現状について説明を行い、「定光寺自然休養林保護管理協会」の事務局として瀬戸市役所から二名、利用者の立場から「名古屋シティフォレストクラブ」の代表者に参加していただき、それぞれ定光寺自然休養林における取り組み等について報告・意見を受け委員の方々と意見交換会を行いました。

意見交換会では、定光寺自然休養林の在り方、地域との連携、施設の整備、情報発信の重要性など、活発な意見がありました。

この現地検討会でレクリエーションの

森の施設の現状、取り組み等について理解していただきましたので、次回以降の検討委員会では、レクリエーションの森の取り扱いについてさらに検討を進め、レクリエーションの森の見直しの基準となるマニュアルの作成への提言を取りまとめることとしています。



取り組み等についての意見交換会

日本森林学会で発表

中部支部大会

【指導普及課】十月十四日、富山県民会館において、第五十五回日本森林学会中部支部大会の研究発表会が開催されました。

この発表会には、中部地方の各大学、各県の研究機関及び中部森林管理局、森林総合研究所から造林、保護、経営、防

災、利用の五つの部門に分かれ、総勢百十二題もの研究成果が発表されました。中部局からは、森林技術センター（木曽署駐在）の三村森林技術専門官（写真）が、平成十七年度に御杣始祭が執り行われた木曽署管内小川入国有林の群状択伐箇所におけるヒノキの天然更新初期の状況把握の内容について発表し、飛騨森林管理署の松井治山課長は、平成十七年度中部森林技術交流発表会において、優秀賞を受賞した「在来種を利用した法面緑化工」について発表されました。



発表をする三村専門官

長野・名古屋林政記者クラブ

国有林視察

【広報室】十月十一・十二日の両日、南信署管内において長野・名古屋林政記者クラブ合同の国有林視察を実施しました。

林政記者クラブは六社から八名が参加し、森林管理局からは木内総務部長、浅岡副所長、大野調整官、有井広報主任官が同行し、南信署から久保田署長、宮路森林官が案内に当たりました。

初日は、雨模様の天気でしたが、中央構造線の溝口露頭部を視察し、一千万年以上前の大陸移動の時間の長さや想像を超えるエネルギーの大きさを感じながら、南アルプス林道をシャトルバスで二〇三〇分の北沢峠まで上りました。建設当時、自然保護と建設促進が国会で激しく論議された林道の現状を視察しました。

翌日は、巫女淵特定地理等保護林を視察しました。

巫女淵特定地理等保護林は、石灰岩地形に「巫女淵」と呼ばれる溪谷が形成された特異な地形とそこに生育するヒメマツハダ、ヒメバラモミ等の希少種等を保護しています。

巫女淵の名の由来は、源平の戦いに敗れた平維盛が二人の妻を伴い「浦部落」に落ち延び、そのうちのひとり白拍子（巫女）が世を憐んで身を投げたという伝説から来ています。

この地域の石灰岩は、炭酸カルシウムに富み、弱アルカリ性でマンガン等が少なく、土壌が薄く乾燥することなどから、この条件に耐えて生育するトダイハハコ、コマイワヤナギなどの石灰岩植物を見ることができました。

切り立った岩盤には、ヒメマツハダ、ヒメバラモミの希少種が見られ、林道の端には、両種の稚樹が生えており、参加者は、触ってその違いを実感しつつ保護林への理解を深めていました。



ヒメバラモミの稚樹を説明する宮路森林官

岩場から水がわき出る「延命水」で休憩のあと、中央構造線と併行する仏像構造線、ニホンジカの食害などを視察した後、ゼロ磁場で話題を呼んだ分杭峠を回って帰路につきました。

参加者からは、「南アルプススーパー林道は開設当時に来たが、現在は六万人の入込みがあると聞きびっくりした。」「ヒメマツハダ、ヒメバラモミなど希少な植物を見ることが出来、勉強になった。」などの意見が聞かれ、盛りだくさんの視察となりました。

「あったらいいな
こんな森林モロ」

森林の絵画コンクール

「名古屋事務所」中部森林管理局名古屋事務所、中日新聞社、中部日本治山治水連盟主催の森林の絵画コンクールの表彰式が十月十五日、名古屋市熱田区神宮にある名古屋市教育センターにおいて行われました。応募総数三百七十点の中から優秀作品として選ばれた二十点が表彰されました。

このコンクールは、木材の供給はもとより、貴重な水の源として、さらに国土や生活環境の保全、安らぎの場の提供など私たちの生活に様々な恩恵を与えてくれる森林の大切さを、次代を担う子供達



審査風景



あったよ、僕の作品！

に、絵画を通じてもっと知っていただき、より身近なものとしていただきたいとの思いで、平成九年度から取り組んでいるものです。今年度も昨年度とほぼ同数の、多くの作品の応募をいただきました。

表彰式では、矢内名古屋事務所長が、『どの作品も『こんな森林があったらいいな』などの、森林に対する想いが、鮮明に描かれていると感じられました。森林や環境への関心の高さを感じ、その反響の大きさに国民の森林を預かる者として、改めて責任の重さを感じております。』と講評がありました。引き続き、矢内所長から中部森林管理局長賞（金賞）

及び名古屋事務所長賞（佳作）、中日新聞社鈴木社会事業部長から中日新聞社賞（銀賞）及び中部日本治山治水連盟賞（銅賞）が授与されました。

なお、これらの作品は名古屋市教育センターにおいて、十月十三日から十五日まで展示され、多くの応募者の家族などが訪れました。中には自分の作品と、入賞作品を見比べながら、家族で楽しそうに会話する姿も見受けられました。また、十月二十四日から十一月十九日の間、瀬戸市の森林交流館において展示（学年別）することとしています。

各地からのたより

ボランティア団体への

伐倒技術の研修会を開催

「名古屋事務所」九月十五、十六日、岐阜森林管理署管内の小川長洞国有林内において、ボランティア団体である名古屋シティ・フォレスト倶楽部（NCF C）に対し「伐倒技術研修会」を開催しました。

この研修会は、NCF Cより伐倒技術の向上と安全作業を目的に要請があり、森林技術センターと共同で一泊二日の日程で実施しました。

一日目は、「伐木作業の進め方」とし

て、熊崎森林技術専門官より、伐倒作業における手順について座学による研修を行いました。特に、安全作業の基本である「指差呼称」、「伐倒時における受け口、追い口の作り方」、「つるの残し方」など模型を使った分かりやすい説明に参加者は「なるほど」と聞き入っていました。

その後、森林技術調査班五名によりチェーンソーの目立てについて、各人が持ち寄ったチェーンソーを使い講習を行いました。目立て後は、丸太を試し切りして切れ味が良くなっていることを実感しました。

二日目は、実際に間伐作業地での、伐倒作業を行いました。経験に応じ三班に分かれ、講師とのマンツーマン方式で、各自が前日の座学を思い浮かべながら、伐倒方向や退避場所、周囲の確認をしながら慎重に伐倒を行いました。また、作業中かき木も発生しましたが、チルホールを使用し適切な処理がされました。

参加者からは、「伐倒の経験はあるが、知らないこともあり勉強になった。」「今後安全を第一に作業したい。」「いい経験ができた。」などの感想が聞かれました。

NCF Cは、国有林をはじめ、民有林でもボランティアによる森林整備を進めており、今回の研修会を通じ自らの技術の向上と併せ、今後も安全作業で森林の整備を行ってもらうことを願ひし、研修会を終了しました。



伐倒作業の実地研修

「第六回夜叉ヶ池 保全連絡調整会議」を開催

「岐阜署」九月二十五日、福井県今庄町ふれあいセンターにおいて、福井県側と岐阜県側の両県協同による夜叉ヶ池周辺の保全を目的に「第六回夜叉ヶ池保全連絡調整会議」が開催されました。会議には環境庁、福井県庁、岐阜県庁、南越前町、揖斐川町、両県ボランティアパトリール団体が集まり会議が行われました。

会議では一年間の保全実施状況の報告と今後の計画などが両県の森林管理署から報告され、ボランティアパトリールからは環境保全の啓蒙活動を通じての問題点や今後の課題が出されました。

会議の中で出された主な問題点は「火気の使用問題」、「尿尿問題」、「ペットの同伴」などの問題が多く出され、今後の継続の課題として論議していくこととなりました。



連絡調整会議風景

また、今年度から環境庁の予算で「ヤシャゲンゴロウの人工繁殖」も行われており、希少野生動植物のヤシャゲンゴロウの生息数の減少が危惧されている中、新たな試みも行われています。

夜叉ヶ池に限らず今後、一層『自然と人との共生』というキーワードが中心軸となっていくと実感し、散会しました。

FFG利用者と交流会

「北信署」十月一日、カヤの平高原に設定されているファミリー・フォレスト・ガーデンの利用者を対象に交流会を開催しました。

カヤの平高原は上信越高原国立公園の中心地、志賀高原の北に位置し、標高一



森林インストラクターから説明を受けて

五〇〇以上の緩やかな高原台地で、美しいブナの原生林やシラカバの群生林などが広がっています。

当日は、少し肌寒い曇り空のなか利用者八組二十五名が参加し、色づき始めた雑魚川風景林の散策を実施しました。インスタクターからカヤの平高原周辺の植生や秋の恵みのキノコについての説明を受けたり、遊歩道の途中にある滝を眺めたりして風景林を散策し初秋を満喫した後は、キノコ汁を食べながら昼食を取りお腹で秋を満喫して終了しました。参加者からは「秋のカヤの平高原をすごく満喫できた」、「キノコ汁がとても美味しかった」、「森林浴でリフレッシュ出来た。とても楽しかった」といった声も聞かれ、大変有意義な交流会になりました。

自然を体感！

ネイチャーゲームを楽しもう

「名古屋事務所」十月一日、第六回森林ふれあい講座を名古屋事務所において、実施しました。

当日は小雨の降るあいにくの天候でしたが、小学生から大人まで十数名が参加し、愛知県ネイチャーゲーム協会青山裕子理事長の指導のもとで色々なゲームを体験しました。

午前中は、ネイチャーゲームの基本的事項について講義を受けました。その後、事務所横の「郷土の森」をフィールドとして実践を行いました。参加者全員が和気あいあいとした雰囲気の中、各自、森林の生き物のカードを背中に付け、その特徴を他の人に聞くなかで、その生き物の名前を当てる「私は誰でしょう」や、木の葉を利用した「カルタとり」、「フィールドビンゴ」などの五感を働かせ、ゲームをとおして、自然や森の仕組みについて楽しく学びました。

午後からは、二人ペアでカメラマンとカメラを交替で担当して撮影する「カメラゲーム」を行いました。それぞれが思い思いの場所で撮影したものを手書きで現像し、作品を飾るイーゼルを作成して当日の講座を修了しました。

参加者からは、「楽しく自然を学ぶことができた」、「作品も立派に作ることができ、充実した時間であった。」等の

声も聞かれました。参加者の中には次回の講座の申し込みを予約される方もいるなど、有意義な講座となりました。

日本百名山

「木曽駒ヶ岳」を登る

(第二回森林パノラマウォーク開催)

【指導普及課】第二回森林パノラマウォーク「日本百名山「木曽駒ヶ岳」を登る」を九月十四日に中央アルプスにおいて開催しました。

今回は長野県内と愛知・岐阜県からも応募者を募り局・南信署・木曽森林環境保全ふれあいセンターの職員の案内により、千畳敷から木曽駒ヶ岳山頂まで五班に分かれ登山を実施しました。

当日は、登山開始直前まで雨が降っていましたが、シラビ平につくころにはすっかり雨はあがりました。この後、ロープウェイで一気に千畳敷まで登り、登山を開始しました。



楽しいね。ネイチャーゲーム

霧の中での登山でしたが、各インストラクターは、コマウスユキソウ・ミヤマアキノキリンソウ等の高山植物や千畳敷カール、自然再生事業における植生再生等について説明をしました。

木曽駒ヶ岳山頂を目前にして昼食を取り、体調を整えてから今回のメインである木曽駒ヶ岳に登頂しました。

イベントの参加者からは、「国有林の取り組みを学ぶことが出来た。」「東海地区からはなかなか登ることが少ないので今回登れてよかった。機会があればまた登ってみたい。」「朝は雨が降っていたが、登りはじめる頃には雨がやみ霧の中ではあったが登れてよかった。」との声も聞かれ霧の中でしたが、満喫した登山ができました。



説明するインストラクター

中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺において植生復元作業を実施

「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

九月二十一日、当センターでは、入り込み増加に起因する踏み荒らし等により高山植物の荒廃が進行している中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺において植生復元作業を実施しました。作業には、当センター職員のほか信州大学農学部、NPO日本高山植物保護協会、NPOアルプスA y u d aなどの有志三十二名が参加しました。

参加者は、駒ヶ岳ロープウェイの終点千畳敷駅から背負子を使って植物繊維マットなどを約二〇〇以上の乗越浄土の先まで運び上げ、その後、昨年度に作業を行った箇所周辺に約二〇〇平方メートルの植生マットを敷設しました。

このマットは、雨水や風による土壌の流出などを抑え、高山植物の発芽や生育を助ける目的で敷設されるもので、低地の植物が混入しないようあらかじめ熱処理を施したものを使用しています。本年度は、二種類のマットを使用し、それぞれに周囲の高山植物の種子を播種した区画と播種しない区画を設けて、植生の定着状況等を比較・検証していくための調査プロットの設定も行いました。

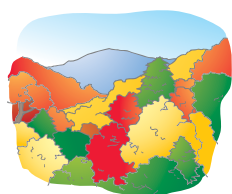
作業にあたっては、出来る限り地面と密着するよう浮き石を取り除いたうえでマットを敷き、釘や石により一枚一枚丁寧に

寧に固定しなければなりません。今回の作業では経験者が多かったこともあり、二時間半ほどで全ての作業が完了しました。

また、当センターでは、調査報告や今後の作業方法等に関する検討会を平成十八年度末に開催することとしています。さらに検討会における意見等を参考にしつつ、来年度以降も植生復元へ向けた取り組みを実施していきたいと考えています。



植生復元作業に取り組む参加者

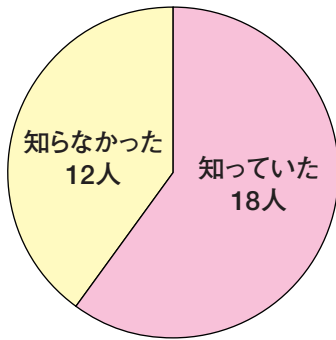


第2回国有林モニターアンケートの結果概要

平成18年度国有林モニター30名へのアンケートを9月に実施しました。今回のテーマは「野生動植物の保護」、「森林レクリエーション」及び「地元自治体との関係」です。

- 問 中部森林管理局では、ライチョウ、アツモリソウ、イヌワシ等の希少野生動植物種の保護管理に取り組んでいます。このことを知っていましたか。

◆解答



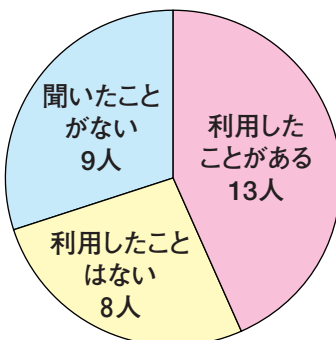
- 問 我が国の自然環境の保護・保全には、一般的には何が足りないと思いますか。(複数選択)

◆解答

- | | |
|-------------|-----|
| ・意識の向上や保護活動 | 21人 |
| ・罰則や立入規制など | 3 |
| ・管理・監視体制 | 4 |
| ・十分足りている | 4 |

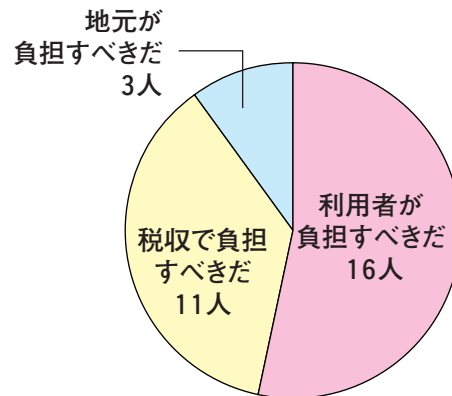
- 問 国有林では、森林浴、自然観察、野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」に設定しています。こうした「レクリエーションの森」を利用したことがありますか。

◆解答



- 問 「レクリエーションの森」の施設整備に必要な費用について誰が負担すべきだと思いますか。

◆解答



- 問 登山中に起きる事故の責任等についてどう思いますか。(自由記述)

◆解答(主な意見)

- ・事故は基本的に登山者の自己責任である。
- ・保険への加入を呼びかけるべき。
- ・登山は本来危険であることを、安易に入山する者に警告、教育すべき。
- ・全てを登山者の責任にするのはいかなものか。
- ・登山道の管理者は標識の整備、気象情報の提供などを行うべき。

- 問 国有林は地元自治体が行う自然環境を利用した地域振興に協力していますが、このことについてどう思いますか。(三択)

◆解答

- | | |
|--------------------------------|-----|
| ・地域振興に寄与することは国有林の果たすべき役割として重要。 | 19人 |
| ・国民全体のための管理や保護を優先すべき。 | 8 |
| ・特定の地域にだけ配慮するのは好ましくない。 | 1 |

今回のアンケートでは登山事故の自己責任についてのご意見をいただきました。秋口に入って立て続けに遭難事故が発生しておりますが、山の天候は変わりやすいので登山をする際には冬山に備えた十分な装備と体調管理、無理のない日程でお出かけください。

赤沼田ヒノキ人工林成長試験地

赤沼田国有林には、中部森林管理局管内に現存する人工植栽地として最も古い、天保十三年（一八四三年）に植林された高齢級の人工林があります。

国内にも例の少ないこの貴重な人工林内に、昭和四十七年に試験地を設定し、高齢級人工林の樹高・胸高直径等の生長推移、被害等の状況を観察し、人工林大径材の指標にするため五年ごとに調査を行っています。

この林分は、一六〇年を超えたヒノキを中心に、サワラ、スギ、モミ、ケヤキ等から形成されており、歴史的・学術的にも非常に貴重な造林地として、昭和三十七年に約三鈔を学術参考保護林に指定し、平成五年からは「赤沼田天保林ヒノキ植物群落保護林」として保護管理しています。

天保年間に植栽された苗木は、天然の稚樹を山引きして植えられたものと考えられており、明治・大正時代に枝打や間伐が実行された記録はありますが、以降施業としての手は加えず自然に推移させています。

平成十四年（林齢一六〇



試験地の入口と説明看板

年生）の試験地調査結果では、ヒノキの平均は胸高直径四十九センチメートル、樹高三十一メートルとなり、サワラもほぼ同じ大きさに生長しています。

これらの生長過程や材質を調査するため、試験地を設定した当時の一三〇年生ヒノキを試験伐採した記録があります。また、平成十年には、台風被害による倒木の樹幹解析、根張や枝張状況などの調

査をしています。近年の生長量は、樹高で年間二センチメートル、胸高直径では二・五ミリメートルと緩慢ではありますが生長しており、引き続き貴重な財産として調査をするとともに、学術研究や国民の教育の場として活用されることを願っています。

◆所在地 岐阜県下呂市小坂町赤沼田
赤沼田国有林二三二林班い小班
試験地の調査データなどは「森林技術センターのホームページ」に掲載。

試験地の林内の様子





◇厳しい自然が生んだ神秘の景観

深き日本一のV字峡、黒部峡谷

「富山署」黒部峡谷は、北アルプスのほぼ中央に位置する鷲羽岳に源を発し、長さ八十六キロメートル、標高差三千メートルにわたって、深いV字峡を刻みながら日本海へ達する大峡谷で、昭和九年十二月に中部山岳国立公園に指定されました。

峡谷は、立山・剣岳・薬師岳などの立山連峰と白馬岳・五竜岳・鹿島槍ヶ岳などの後立山連峰の間に、黒部川の浸食によって深く刻み込まれ、八千八百といわれる多くの溪流を合わせながら、黒部川扇状地を経て富山湾の東側に注ぎ、春には冷たい雪解け水を運んでいます。

黒部峡谷流域の平均傾斜は三十六度と非常に勾配が強く、三十度から四十五度の部分が全体の七十割にも及びます。また、流域が豪雪地帯に位置するため、四季を通じて黒部川は水量が多く、また、河川勾配が平均四〇分の一と急で、流れも早いのが特徴です。また黒部川は、水



黒部峡谷の山並み



峡谷を行くトロッキ電車



黒部の深いV字峡

のきれいな川としても知られており、下流の黒部市生地に湧出する地下水は「全国名水百選」にも選ばれています。

宇奈月から森石駅を過ぎて中部山岳国立公園・特別名勝・特別天然記念物の黒部峡谷に入る、日本一深い谷を縫うように走る「トロッキ電車」の愛称で親しまれる黒部峡谷鉄道は、宇奈月から樺平までの約二十キロメートルを、平均時速十六km/hのスピードで約一時間二十分かけて走ります。

軌道の幅は新幹線の約半分の七六二ミリ、JR在来線の七割程度のミニサイズですが、自動列車停止装置（ATS）や列車無線装置を完備した観光鉄道で、くぐるトンネルの数は四十一（最長一〇七三メートル）、橋を渡ること二十二回、春は新緑、夏は爽涼、秋は紅葉で手つかずの大自然にふれる旅に出てみては。

奥には「くろよん」で知られる黒部ダムが、静かに多くの水を湛えています。

◇アクセス

宇奈月へは、JR魚津駅下車、富山地方鉄道（三十分）車では北陸道黒部IC下車、県道を十三キロメートル（約二十分）。

行事・会議等の予定

◎名古屋シティフォレストスター事業

11月10日 南信署管内

11月17日 東濃署管内

◎会計実施検査

11月13～17日

◎森林ふれあい講座

11月18日 愛知所管内

おくりやみ申し上げます



故 松井 浩樹 氏

愛知森林管理事務所

農林水産技官

松井浩樹氏（41歳）は10月16日にご逝去されました。

同氏は、昭和60年名古屋営林局土木課に採用以来、小坂署、神岡署、荘川署、名古屋支局計画課等の造林、生産、測定、普及関係の業務に勤務し、活躍されてきました。

謹んでご冥福をお祈り致します。